

保護者の皆さまへ

表裏印刷しております。裏面もご覧下さい。

千早赤阪村立赤阪小学校

校長 春次 秀夫

学校アンケート結果について (ご報告)

梅花の候、保護者の皆様にはますますご清祥のことと、お喜び申し上げます。日頃は本校教育活動にご理解、ご協力をいただき誠にありがとうございます。

さて、昨年12月に保護者・児童対象に実施いたしました学校アンケートについて、下記内容をご報告させていただきます。

記

- ① 保護者アンケート (保護者対象) の集計表及び考察
- ② 児童アンケート (5・6年生対象) の集計表及び考察・自由記述
- ③ 「赤阪小学校を改善していくための提案 (保護者対象)」については、学校運営全体に関わ
るご意見を掲載させて頂き、いただいたご意見について、今の時点での学校としての対応
や課題と思われる点をお知らせし、次年度の教育活動の中で生かしていきたいと考えて
おります。

■□■ 集計表の見方 ■□■

【児童用アンケート】

A:「強く思う」 B:「そう思う」 C:「あまり思わない」 D:「まったく思わない」

【保護者用アンケート】

A:「よくあてはまる」 B:「ややあてはまる」 C:「あまりあてはまらない」 D:「まったくあてはまらない」

上記のA, B, C, Dを割合 (%) で表すとともに、「A+B」をプラス (肯定的) 評価、また「C+D」をマイナス (否定的) 評価として表しています。

本校では、今回の学校アンケートの結果を分析、考察し、学校運営、学校教育活動の改善に努めてまいります。また、保護者の皆様からの質問やご意見をいただきながら、子どもたちのためになるように考えていく方向で進めてまいります。今後とも学校に対してなにかご質問やご意見がございましたら、いつでもお知らせいただければ幸いです。よろしくお願
いいたします。

| 令和元年度保護者アンケート集計表 | | 割合(票数÷合計) | | | | | プラス評価 | マイナス評価 |
|------------------|---|-----------|-----|-----|----|------|-------|--------|
| 項 目 | | A | B | C | D | 合計 | A+B | C+D |
| 1 | 子どもは、楽しく学校に登校している。 | 70% | 28% | 2% | 0% | 100% | 98% | 2% |
| 2 | 学校は、他校にない特色ある教育活動を行っている。 | 38% | 43% | 15% | 4% | 100% | 81% | 19% |
| 3 | 学校は保護者・地域の願いに応えている。 | 13% | 69% | 11% | 7% | 100% | 82% | 18% |
| 4 | 学校での子どもの学習活動・様子についてよく知ることができる。 | 41% | 50% | 7% | 2% | 100% | 91% | 9% |
| 5 | 通知表は、子どもの学力や達成度について知るよう にできている。 | 48% | 50% | 0% | 2% | 100% | 98% | 2% |
| 6 | 学校は学習のつまずきを把握し、子どもにきめ細やかな指導や支援をしている。 | 36% | 59% | 5% | 0% | 100% | 95% | 5% |
| 7 | 学校は豊かな心を持った子どもを育てようと体験活動に取り組んでいる。 | 36% | 62% | 2% | 0% | 100% | 98% | 2% |
| 8 | 学校は、いじめや不登校をなくす取り組みを行っている。 | 20% | 59% | 20% | 0% | 100% | 80% | 20% |
| 9 | 学校では環境、国際理解、福祉ボランティア等の教育課題について子どもに学ばせている。 | 26% | 57% | 17% | 0% | 100% | 83% | 17% |
| 10 | 学校では子どもの人権を尊重する教育活動が行われている。 | 30% | 53% | 16% | 0% | 100% | 84% | 16% |
| 11 | 学校では安全な登下校ができるように取り組みを進めている。 | 30% | 46% | 22% | 2% | 100% | 76% | 24% |
| 12 | 学校では友だちを大切に作る仲間作りに取り組んでいる。 | 33% | 54% | 13% | 0% | 100% | 87% | 13% |
| 13 | 学校は子どものまちがった行動には適切に指導してくれる。 | 30% | 61% | 9% | 0% | 100% | 91% | 9% |
| 14 | 学校は子どものたちの体力向上・運動についての関心を高める取り組みを行っている。 | 32% | 59% | 9% | 0% | 100% | 91% | 9% |
| 15 | PTAは積極的に活動している。 | 25% | 64% | 11% | 0% | 100% | 89% | 11% |

※計算式によりA+B+C+Dの割合が100%にならないところがあります。

【アンケート結果より】

アンケートの内容を精選し、今までになかった「学校は、いじめや不登校をなくす取り組みを行っている。」など、今の教育に必要と思われる新しい設問を設定しました。昨年度と比較して「体験活動に取り組んでいる」、や「子どもの間違っ
た行動には、適切に指導している」の項目では、14%肯定的な意見が増加しています。また、それ以外でも、昨年
に比べてほとんどの項目で肯定的な意見が増えています。しかし、「安全な登下校ができるように取り組んでいる」の
肯定的な意見が76%に留まっており集団登下校を中心とした取り組みに改善しなければならないところがある
と考えています。

また、「児童アンケートの記述も見てみたい」とのご意見がありましたので、今年度は、児童アンケートの集計結果に
まとめて添付しました。児童の記述では、同じような意見はまとめており、意味が伝わりにくい書き方があったとき
には加筆しています。

お忙しい中、アンケートへのご協力ありがとうございました。

令和元年度学校アンケート 児童自由記述の内容

| 令和元年度 児童アンケート集計表 | | 割合(票数÷合計) | | | | | プラス評価 | マイナス評価 |
|---|-----|-----------|-----|-----|------|-----|-------|--------|
| 項目 | A | B | C | D | 合計 | A+B | C+D | |
| 1 学校へ行くのが楽しい。 | 47% | 47% | 5% | 0% | 100% | 95% | 5% | |
| 2 先生たちは、わたしたちの意見をよく聞いてくれる。 | 45% | 47% | 3% | 5% | 100% | 92% | 8% | |
| 3 学習で自分の考えをまとめたり、発表することがある。 | 32% | 53% | 13% | 3% | 100% | 84% | 16% | |
| 4 先生たちは教え方にいろいろな工夫をしている。 | 55% | 32% | 11% | 3% | 100% | 87% | 13% | |
| 5 学習でわからないことについて、先生に質問しやすい。 | 39% | 45% | 16% | 0% | 100% | 84% | 16% | |
| 6 先生たちは、学習で自分が努力したことを認めてくれる。 | 46% | 30% | 22% | 3% | 100% | 76% | 24% | |
| 7 体育の授業や運動会、かけ足記録会などの行事を通して自分の体力がついてきたと思う。 | 39% | 32% | 18% | 11% | 100% | 71% | 29% | |
| 8 ちがう学年と協力する「わんぱく班活動」は大切だと思う。 | 39% | 37% | 24% | 0% | 100% | 76% | 24% | |
| 9 地震や火災などがおこった時、どうしたらよいかを教えてもらっている。 | 54% | 41% | 0% | 5% | 100% | 95% | 5% | |
| 10 学習で大人になったときの職業(仕事)について考えることがある。 | 22% | 43% | 27% | 8% | 100% | 65% | 35% | |
| 11 学習で協力、奉仕(社会や人のためにつくす)、助け合いについて学ぶことがある。 | 26% | 50% | 24% | 0% | 100% | 76% | 24% | |
| 12 学級会では友達やクラス・学校のことについてよく話し合う。 | 34% | 37% | 21% | 8% | 100% | 71% | 29% | |
| 13 委員会活動はみんなの役に立っていて、やりがいがある。 | 42% | 37% | 16% | 5% | 100% | 79% | 21% | |
| 14 命の大切さや社会のルールについて学ぶことがある。 | 47% | 45% | 8% | 0% | 100% | 92% | 8% | |
| 15 自分を大切に、仲間への思いやりについて学ぶことがある。 | 47% | 42% | 8% | 3% | 100% | 89% | 11% | |
| 16 世界の国々のことや環境問題、いろいろな人たちの生き方について学習することがある。 | 37% | 47% | 13% | 3% | 100% | 84% | 16% | |
| 17 給食の時、栄養や食べ物について考える機会がある。 | 39% | 45% | 11% | 5% | 100% | 84% | 16% | |

※計算式によりA+B+C+Dの割合が100%にならないところがあります。

【アンケート結果より】

・昨年度、児童の意見の中に「4年生のアンケートはいらなと思う」という意見があり、学校で検討して今年度から高学年(5,6年生対象)のアンケートとして実施しました。また、昨年度の項目にあった「給食はおいしい」の質問を「給食の時、栄養や食べ物について考える機会がある。」に改題したり「クラブ活動は楽しい」を削除するなど、質問数を20から17に整理しました。集計結果、昨年度と比較して「学校に行くのが楽しい」で14%、「学校は私たちの意見を聞いてくれる」の項目で12%肯定的意見が増加しました。特に、学校に行くのが楽しいと答えた児童が95%いたことは嬉しく思います。しかし、残りの5%の児童が、なぜ、どんな理由で、「楽しい」と感じないのかを考え、すべての児童が「学校に行きたい」と思えるよう取り組みます。

また、昨年度、課題としてあげておいた「体育の授業や運動会、かけ足記録会などの行事を通して自分の体力がついてきたと思う。」では、10%の改善がありました。同じく課題として取り上げた「学習で大人になったときの職業について考えることがある。」では、改善がされていません。今年度の反省を生かして、来年度キャリアパスポート(学習の活動や内容を記録に残し、学んだことを振り返りながら将来の生き方を考えること)に取り組むことで児童の職業への意識を高めていきたいと考えています。

- 運動会やかけ足記録会は自由参加が良い
- 教え方をもう少し工夫して欲しい
- もっと細かくルールを作ったら良い
- 「学校の服装の決まり」でスカートの下に体操服ズボンをはいてはいけないというのはやめて欲しい
- 廊下の角に鏡を付けた方が良い
(右から来る人と左から来る人でぶつからないため)
- みんなが楽しめそうなクイズやなぞなぞを廊下の壁に貼ったら楽しめそうと思う
- 委員会でより良くするように活動を行う
- 私服にして欲しい
- 楽しい学校生活にしたい
- 先生は、みんな優しい。みんなふざけている時もあるからそこは厳しく叱って欲しい
(私もそういうときがあるから私も叱って欲しい)
- このアンケートに名前を書く欄がないからよいと思う
- 6年生からシャーペンを使えると良い
- 計算タイムではなく、クイズタイムにすればよいと思う
- わんぱく班は大切だけれど、なかなかみんなちゃんとしてくれない。
わがままなどをいうので、もう少し先生からも言って欲しい
- 学校のグラウンドを芝生にする。ブランコを作る。
- 冬、机にこたつがあれば勉強をがんばれる。
- 「わいわいしてもよい」というルールを作る。
- 漫画を持ってきていいようにする
- 席替えを自由にする
- 壊れている物を直して欲しい
- トイレの汚さをどうにかして欲しい
- 図書室の本に漫画を置いて欲しい
- かけ足タイムを鬼ごっこに替えて欲しい
- 校則が厳しすぎる。小学校の間は、髪は何でもよいと思う
(先生の服装は自由なのに)
(なぜ服が派手ではダメなのか、ツーブロックがダメなのか説明して欲しい)
- かけ足の時間をなくす。それか休み時間以外の時間にかけ足をする
(休み時間は貴重)
- 先生は、子どもの意見を聞いてくれない
- このアンケートを続けて欲しい
- もう少し学校に持ってこれるペンの色を増やして欲しい
- 男子の更衣室をつくって欲しい

令和元年度赤阪小学校を改善していくための提案

※保護者の皆様より頂いたご意見についてお答えしたいと思います。ご意見につきましては、ほぼ原文通りの表現にさせていただいております。但し、個人情報が特定されると思われる内容については、記載を控えたり、変更させていただいたりしておりますので、ご了承ください。

(将来の夢を実現するための教育について)

■将来の夢を実現するためのプロセスを考える時間。(何が必要で、何年必要で、どう近づいて行くか)

→<ご提案に対して>

児童が「将来の夢を実現するためのプロセス」を学校では、「キャリア教育」と呼んでいます。キャリアは、ある年齢に達すると自然に獲得されるものではなく、発達を促すには、組織的・体系的な働きかけが不可欠だと考えております。赤阪小学校でも来年度から児童の活動を記録し蓄積していきながら、学年ごとの獲得目標を明確にして取り組めるよう今までの内容を見直しています。

今年度の反省を生かして、来年度キャリアパスポート(学習の活動や内容を記録に残し、学んだことを振り返りながら将来の生き方を考えること)に取り組むことで児童の職業への意識を高めていきたいと考えています。

(学力向上)

■できる子には、もっとレベルを上げて欲しい。学力向上。

■学力が上がるように学校教育に力をいれてもらいたい。

→<ご提案に対して>

昨年の11月6日に大阪府の「確かな学び」事業の発表を行い3年間の学力向上の取り組みを発表しました。活用テストを各学年作成し、記述式問題の読解にも計画的に取り組み、誤答を分析したり、児童アンケートの結果から効果的な指導法の研究に取り組みました。

また、家庭学習の取り組みも学級・学校日より等で保護者の方にお願ひしながら児童の学習習慣の定着にも力を入れてきました。来年度も引き続き学力向上に努力していきます。

(課外授業)

■豊かな自然環境を生かした課外授業があればいいと思います。(棚田で田植えとかその他の農業体験など)、親子ドッジボール大会などもあったら楽しいかも

→<ご提案に対して>

本校も自然体験は児童の豊かな感性を育むのに必要であると考えています。今年度、保護者の方に、ご参加いただき金剛登山を実施しました。また、学校評議員さんや校務員さんのご厚意でいちご狩りやサツマイモ堀りを行っています。来年度、「田んぼを貸してもいい」と言ってくださる方があり、継続的に借りることが出来るかなど、いろんな観点から話し合っって児童のためになるなら進めていきたいと思っています。「親子ドッジボール大会」など、楽しいことを親子でできることは素晴らしいことです。ただ、共働きの家庭が増える中、どのような形にしたら負担なくできるのかPTAの方々の意見も聞きながら考えていきたいと思っています。

(学童保育)

赤阪小に学童がないので不便です。送迎で帰りの便も出して欲しい。

→<ご提案に対して>

昨年度、「赤阪小学校に学童を設置に向けて」という事で保護者の方と教育委員会で話し合いを重ねました。現状を教育委員会に問い合わせたところ、「話し合いの結果、赤阪小学校では設置するのが難しい。」とのことでした。また、送迎等でバス便を出すことも今は考えていないとのことでした。

(校庭開放とマラソン大会について)

■千早小吹台小学校との違いをなくせないのか?例えば放課後の校庭開放は千早小吹台では毎日だが、赤阪は決められたときのみである。マラソン大会も千早小吹台は学校の外でやっているが、赤阪は校庭を走るのみである。「なくす」とまではいわないが、少しでも違いを小さくできないものであろうか。

→<ご提案に対して>

■放課後の校庭開放は、安全面、緊急時の対応が難しく、実施していない学校も数多くあります。

赤阪小学校でも二年前にPTAから引き継ぎ、学校が校庭開放を運営するようになりました。今年度、大阪府の「確かな学び」事業の研究発表の年にあたり、会議も増え、思ったほど校庭開放の回数が取れなかったことは残念に思っております。

現状では毎日の校庭開放ではなく、今まで通り職員の数確保でき、子どもを最後まで見送れる体制が取れた時のみにしたいと思っています。今年度も後わずかですが、一回でも多く回数を増やし、子どもの笑顔を増やしたいと思っています。事情ご賢察の上、引き続きご協力お願いいたします。

また、かけ足記録会ですが、これも保護者の方々の要望があり、2年前から見に来ていただくようにしました。外を走ることも望ましいのですが、赤阪小学校の周りにマラソン大会に適したコースがなく、安全面を考えて校庭で実施しております。小学校のマラソン大会も変わってきており、学校によっては、出発時間をずらし、速く走れない児童やマラソンを苦手としている児童を先にスタートさせるなどの配慮を優先して実施している学校もあるそうです。赤阪小学校も外で走れない分、縦割り活動で実施しており、なかよし班の児童の声援の中、順位にとらわれることなく一生懸命走っています。体力作りはもちろんですが児童相互の温かな繋がりを作ることも大事にした行事ですので、ご理解いただければ、ありがたく存じます。

(学校へのお礼)

■上の子を含め赤阪小学校には、十数年、大変お世話になりました。公務員さんにも、清掃や登下校の横断時の誘導(安全管理)等お世話になりました。卒業するまで、まだまだありますが、この場をおかりしてお礼申し上げます。ありがとうございます。

→<ご提案に対して>

ありがとうございます。赤阪小学校らしさを大切にしながら、PTAの方々や地域の方が創ってきた良き伝統を発展さすよう頑張ります。

(学校での服装について)

■上着やズボンの色の規制が厳しすぎるまた、男子のツーブロック禁止の理由が分からない。

→<ご提案に対して>

昨年度、「ジャンパーはフードのついていないもの」という決まりがありましたが、今年度はジャンパーでもフードのついているものも多く、実態に合わせてフードのついているものも可としました。

しかし、児童の学校アンケートの自由記述を見てもやはり、服装や頭髮の決まりがなぜ必要なのかを児童に理解させ、子どもの納得感を得るには至っていません。

集団生活をしていく中で一定の決まり事は必要ですが、髪型や服装などに関しては御家庭でのご意見が多様な中、学校にご理解を頂いています。それにもかかわらず、改善が不十分なところがあり、申し訳なく思っております。子どもたちの意見や気持ちを大事にしながら、「なぜ、そのルールが必要なのか。」を児童が理解できるよう教育活動に努力して参ります。

(緊急時の対応について)

■近隣の街で子どもに関係する犯罪が起きかけていても何の対応もなされていないのではないかとと思わせることが何度かあった。校区でなければ問題ないという判断なのですか。子どもの自力下校を押し通すなら臨機応変な対応や防犯に対する教育が必要であると思う。それに関しては、学校でも充分になされているのでしょうか。(意見を書いても反映されたという手応えがない)

→<ご提案に対して>

まず、貴重なご意見を頂いているにもかかわらず、無力感を感じさせてしまい申し訳ありません。

さて、近隣で犯罪が起きたときの対応に関してですが、①緊急時の異変を担任に伝え児童に注意喚起。②教員に研修を実施し、危機管理を徹底する。③警察などに依頼し、児童に不審者遭遇時の対応を講習④子ども見守り隊との連携⑤緊急時の教員の付き添い。などに力点を置いて指導しています。

幾つか危機管理に関する今年度の学校の対応を紹介させていただきます。

- ・学級閉鎖で下校時刻以外に児童を下校させなければならなくなった時の教員の付き添い。
- ・子ども見守り隊会議において、警察の方に来ていただいて防犯講習の実施。
- ・保護者の方のご依頼により、より危険の大きい場所に学校安全の日のパトロール場所を変更。
- ・登下校時、児童の危険が予見される場所(森屋西から学校への通学路等)にグリーンベルトの設置要望。
- ・児童への不審者対応訓練。

などです。本校にはバス通学の児童もおり、バスの中の児童の状況把握等、課題もあります。また、ご指摘いただいた通り学校が至らないところもあると思います。その点を具体的に教えていただき改善できればと思っております。今後ともよろしく願いいたします。